

第3節 豊かな自然環境を守り、次の世代へ繋いでいきます



基本目標2

豊かな自然環境を守り、 次の世代へ繋いでいきます

- 2-1 南アルプスなどの自然環境・生態系の保全
- 2-2 自然を利活用した人材の育成



2-1

基本目標2 豊かな自然環境を守り、次の世代へ繋いでいきます 南アルプスなどの自然環境・生態系の保全

市の施策・取り組み

(1) 生きものの生息・生育場所を保全します

① 生きものの生息・生育場所の保全とネットワーク

- ◆ シカの食害対策や野生鳥獣の適正な管理などにより、南アルプスの貴重な生きものを保全します。
- ◆ 里地里山の維持と継続的な管理、環境保全型農業の推進などにより、里地里山の生きものを保全します。
- ◆ アカウミガメの産卵環境の保全や人工海浜の整備などにより、海岸の生きものを保全します。
- ◆ 河川改修における多自然川づくりの推進や、公園整備におけるビオトープの設置など、公共事業の計画・実施において、生きものの生息・生育環境に配慮します。
- ◆ 市街地における緑化の推進や、水と緑のネットワークの拡大などにより、生きものの生息・生育場所をつなげます。
- ◆ 専門家や専門機関との協働による生きものの把握調査や、市民参加による生きもの調査の実施など、市内に生息・生育する生きものを調査します。



ライチョウ

② 希少種や外来種などへの対応

- ◆ 傷病野生鳥獣の保護や希少な生きものの保全を進めます。
- ◆ ペットの飼育方法や動物取扱業に関する普及啓発、外来種に関する情報の収集とホームページにおける周知などにより、外来種に関する普及啓発を行います。
- ◆ アライグマやオオキンケイギクなど特定外来生物の調査・防除を実施します。



麻機遊水地における
オオキンケイギク除去

(2) 自然環境の恵みを保全します

① 南アルプスの自然環境の保全

- ◆ 本市を含む関係10市町村、国、県、関係団体などとの連携・協働体制を強化するとともに、来訪者のルールづくりと啓発活動の推進により、繋がりを意識した南アルプスの一体的な保全に取り組みます。
- ◆ 豊かな自然とそこに育まれた人々の生活を保全し継承するため、希少種の生息・生育状況、自然景観、自然への人為的な影響、河川環境などの自然環境や生活環境の変化をモニタリングします。
- ◆ 高山植物やライチョウの保護に向けた取り組みを推進します。
- ◆ 自然環境や社会状況などのモニタリング結果を踏まえた各種施策の見直しやオーバーユースによる影響への適切な対応、登山者の環境保全意識の向上、外来植物などの侵入・拡散防止により、自然環境の保全と生態系のバランスを考慮した保全手法を検討・実施します。



南アルプスユネスコエコパーク
基本合意締結式

- ◆ 事業活動に伴う施設や看板の整備などにおいては、自然景観に配慮した工法や材料を採用します。
- ◆ 事業者などに対し、各種法令の遵守や林道周辺の自然環境の保全、ユネスコエコパークの理念に基づく各種施策への配慮を求めるとともに、環境保全措置などの実効性を監視し、新たな開発などへ適切に対応します。

②森林の恵みの保全

- ◆ 森林保全を担う林業担い手育成対策を推進します。
- ◆ 間伐が放棄された人工林の間伐を実施し、林床植生の再生などを促し森林の持つ多面的機能を強化します。
- ◆ 市産材を活用した住宅や事業所の建築・建設を促進するとともに、公共建築物への市産材利用を促進します。
- ◆ 適正な森林整備が進むよう支援するとともに、市有林や森林公園などの適正な維持管理や整備を実施します。
- ◆ 都市部で活動する企業からの支援により森林整備を行い、二酸化炭素の地産地消を推進します。
- ◆ 間伐・植林体験活動や自然観察など、森林教室を開催します。



間伐

③里地里山の恵みの保全

- ◆ 棚田の持つ多面的な機能の維持・保全に努めます。
- ◆ 良好な里山環境の整備及び生物多様性の保全を図るため、放任竹林対策を実施する団体を支援します。
- ◆ 野生鳥獣による農林業への被害を軽減するため、防護柵の設置や緩衝地帯整備、捕獲報償金による捕獲の促進などを図ります。



竹林整備

④河川・海岸・湿地の恵みの保全

- ◆ 人工海浜、海浜緑地の整備推進、生活排水処理率向上による水質の保全、河川環境アドプトの実施・拡大などにより、水生生物の生息しやすい環境をつくります。

市民・事業者の取り組み

	市民	事業者
■ 環境学習会などに参加し、生物多様性を大切にすることを育みます。	●	●
■ 生物多様性に配慮した産業を展開します。		●
■ 希少野生生物についての理解を深め、保護に協力します。	●	●
■ 庭や事業所の敷地内にビオトープを造成し、生きものの生息・生育環境の創出に協力します。	●	●
■ 生きもの調査に参加します。	●	●
■ フンの処理など、ペットの飼育マナーを守ります。	●	
■ 外来種の分布が拡大しないように協力します。	●	●
■ 防護柵の設置や有害鳥獣捕獲の実施を行います。		●
■ 市産材を活用した住宅や事業所の建築・建設を行います。	●	●
■ 間伐・植林体験活動や自然観察など、森林教室に参加します。	●	●

2-2

基本目標2 豊かな自然環境を守り、次の世代へ繋いでいきます
自然を活用した人材の育成

市の施策・取り組み

(1)自然を活かした賑わいづくりを行います

①南アルプスの活用

- ◆ 南アルプスの豊かな自然を保全するため、調査や研究、教育の場として活用し、学術的知見の集積による適切な保全対策などの実施や自然とのふれあいによる豊かな心の醸成を推進します。

②麻機遊水地の活用

- ◆ 自然再生事業の対象地区である麻機遊水地第1工区内に、自然とふれあう体験型の都市緑地「あさはた緑地」を整備します。



麻機遊水地でのイベント

③エコツーリズムの推進

- ◆ エコツーリズム・グリーンツーリズムの推進、体験型観光・農山村体験・森林教室などの実施及び実施支援により、里地里山と市民のふれあいの場を提供します。
- ◆ 生きものとのふれあいイベントの開催、大学、企業、NPOなどと連携した自然体験教室の開催などにより、海・川の恵みを活用します。

④生物多様性に配慮した地域づくり

- ◆ 地産地消の推進による地元産品への関心喚起、地域ブランドの開発支援、認証制度の実施などにより、魅力を発信します。
- ◆ 里地里山地域への移住・定住の促進、集落の活性化を支援する人材の配置などにより、地域の持続可能なコミュニティづくりを行います。
- ◆ たい肥による土づくりと化学肥料及び化学農薬の低減を一体的に行うエコファーマーの認定取得を促進します。
- ◆ 環境保全型農業に関する勉強会の開催、地産地消の促進、森林認証制度をはじめとしたさまざまな認証制度の紹介など、生物多様性や環境に配慮した取り組みを支援します。

(2)自然とのふれあいの場づくりを進めます

①自然とのふれあいの場の整備・活用

- ◆ ウォーキングやハイキングコース、キャンプ場など野外活動施設の情報提供により、自然とのふれあいを促進します。
- ◆ 日本平動物園で「ふれあい教室」を開催するなど、動物とのふれあい事業を促進します。
- ◆ 森林とのふれあいの場として「高山・市民の森」の活用を進め、森林環境教育を推進します。



静岡市いきもの散策マップ

(3)自然を学び育みます

①自然環境や生物多様性に関する理解の促進

- ◆ ユネスコエコパークの理念に沿った教育プログラムの開発やE S D（持続可能な開発のための教育）の推進、体験教育や合宿、企業研修の誘致などにより、自然や文化を学び、心を育てる場の環境整備に取り組みます。
- ◆ 環境学習会や自然体験教室など自然とふれあえる場の提供、環境学習指導員の積極的な派遣などにより、生物多様性の理解に繋がる環境教育・環境学習を推進します。
- ◆ モニタリング調査による生きもの情報のホームページ公開、生物多様性に関する講演会やシンポジウムなどの開催により、生物多様性に関する情報を発信します。
- ◆ 少年自然の家などでは、井川や和田島周辺の自然を活かした体験活動ができるイベントやプログラムを実施します。
- ◆ 静岡科学館る・く・ると静岡県自然観察指導員会中部支部との連携により、自然観察会を実施します。
- ◆ 林業体験教室や森林教室、自然観察会などを通して、森林に親しむ機会を提供し、森林の持つ多面的機能の重要性を市民に啓発します。

②自然環境保全活動の担い手育成とネットワーク化

- ◆ 環境大学における環境学習リーダーの育成、環境学習指導員に対する研修などにより、自然保護の活動の中心となるリーダーを育てます。
- ◆ ユネスコエコパーク登録地域内に、自然や文化に関する調査研究活動を支援するための拠点整備を検討し、研究者の育成を図るとともに、学術的価値の集約・保存・活用に取り組みます。
- ◆ 市民参加型の生きもの調査の実施、企業活動における環境活動の積極的な取り入れの呼びかけなどにより、市民・NPO・企業などを中心とした環境活動を推進します。
- ◆ 講演会やシンポジウムにおける活動発表の場の提供、アドプト参加団体の活動情報収集、アドプト制度への市民の積極的な参加呼びかけなどにより、環境活動のネットワーク化を図ります。

市民・事業者の取り組み

	市民	事業者
■ 南アルプスユネスコエコパークに関心をもち、環境保全に協力します。	●	●
■ 麻機遊水地での外来種駆除や自然観察会などのイベントに参加します。	●	●
■ エコツアーや体験型観光・農山村体験・森林教室などへの参加、エコツアーガイドとして活躍します。	●	
■ エコツアーや体験型観光・農山村体験・森林教室などを企画・実施します。		●
■ 地元産の農作物を積極的に購入するなど、地産地消を進めます。	●	
■ エコファーマーの認定取得や環境保全型農業の実践、森林認証の取得など、生物多様性や環境に配慮した農林業を実践します。		●
■ 環境学習会や自然体験教室、講演会、シンポジウムなどに参加し、生物多様性についての知識を深めます。	●	●
■ 生きもの調査などに協力します。	●	●
■ 休日などは積極的に自然とふれあえる場所へ出かけます。	●	
■ イベントやプログラムなどに参加し、季節や自然の素晴らしさを体感します。	●	
■ イベントへの協力や講師派遣などを行います。		●

環境キッズしずおかプログラムとは？

「環境キッズしずおかプログラム」は、環境保全のための活動（自然観察・省エネルギー・ごみ減量など）を学校において取り組むものであり、子どもから家庭へ広げ、さらには環境にやさしい地域づくりを目的としています。学校の周りにある身近なフィールドを使い、体験を通じて環境学習を実践していくとともに、環境に対する意識の高い人材を育みます。

基本的には学校で計画されている環境学習内容で進め、年3～5回程度の学習会を開催します。また、対象学年は4～6年生としています。

平成25年度は3つの小学校（安倍口小学校5年、伝馬町小学校5年、清水興津小学校4年）がモデル校となり、さまざまな取り組みが行われました。

■安倍口小学校の事例

- ・自然観察会（学校周辺の生きもの観察、内牧川の水質調査と水生生物調査）
- ・環境学習会（富士山と朝霧高原について）
- ・アースキッズプログラム など

■伝馬町小学校の事例

- ・自然観察会（清水山公園・谷津山周辺の自然体験学習）
- ・竹を使ったりリサイクル工作
- ・アースキッズプログラム など

■清水興津小学校の事例

- ・事前学習会（興津川の魚、水生生物、チョウ、石などの話を聞き理解深める）
- ・体験学習会（実際に興津川へ行き、生きものを捕まえたり、観察を行う）
- ・学習発表会（興津川について各自テーマを決め、研究した成果を発表する） など



興津川で水生生物などの観察



アースキッズプログラム